

第9回 津波防災地域づくりと砂浜保全のあり方に関する懇談会
議事要旨

日時：令和元年6月5日（水）
15:30～17:00

場所：中央合同庁舎4号館 108号室

1. 砂浜保全に関する中間とりまとめ

- ・ 15年間で侵食により2,400haの砂浜が減少したのは事実だが、今もそのまま続いていると誤解を招かないように「減少している」ではなく「減少していた」という表現がより適切ではないか。常に侵食が継続しているというのは、自然状態としてはありえないし、安定している砂浜もある。
→「減少してきた」等、より適切な表現に修文する。
- ・ 離岸堤等の施設を設置すると周辺に影響を与える可能性がある。過剰な対策はその下手の侵食を助長する可能性もあり、対策をしたことでさらに周辺で追加の対策が必要になる場合もある。整備すれば全て良くなると受け止められると誤解を招く可能性がある。
→整備を行ったから終了ではなくて、そういう影響も含めて継続的な養浜が必要になる砂浜もあり、それとは関係なく施設だけで十分でないので継続的な養浜が必要になる砂浜もある。文章にはその両方の意味が入っていると思う。
- ・ 「事後保全的な対策」という言葉が唐突に出てくるが、一般的に意味が理解できるか。構造物なら壊れた後とわかるが、砂浜は事後か事前かわからないのではないか。
- ・ 事後保全的な対策にとどまっていた背景として、侵食を把握していても、現場での予算不足により手が打てないでいたという実態を記述すべき。
→「財政的な制約等から、海岸侵食の進行に対策が追いつかず」という記載に反映されていると思う。
- ・ 事前投資が良いというのは明らかなので、予防保全への転換をより強調すべきではないか。
- ・ 事前に予測ができるようにすべきであり、そのための技術開発・活用をしていくというスタンスであるが、そこに住民の理解、参加も重要なポイントになる。
- ・ 環境・利用のところが箇条書きになってしまい内容が薄いので、できる限り文章として記載して欲しい。
→防護を中心に議論してきたので、ひとまず、このようなとりまとめとし、環境の議論は今後行った上で、再度、充実させるという枠組で前回整理している。
- ・ 「実効性のある環境調査手法」はどういったものを想定してるか。
→現在行っている砂浜の環境調査は実施箇所が限られている。日頃から海岸に携わっている海岸協力団体等と連携することにより、砂浜の現状把握のための調査体制を構築する等、実効性を高めていくべきと考えている。

- ・ 「実効性のある」という表現だけではなく、具体的に記載すると良い。
- ・ 河口から海に入ると、港湾・漁港・海岸保全施設が多数整備されているため、流砂系全体での土砂管理における他の施設管理者等との連携についても記載して欲しい。
- ・ 砂浜の海岸保全施設の指定においては、砂浜は変動するものなので、最終の砂浜を見立てて指定すると新たな問題が生じかねない。少し下手の方も範囲に入れるとかファジーなことを入れられないか。
 - 砂浜指定において、これまでも漂砂を許容するという議論だったと思う。漂砂の動的平衡のバランスが取れた安定した砂浜を指定していくものと考えている。
- ・ 砂浜のランク分けにおいて、現場の認識があるかないかが重要であり、そのためには人材育成が必要となる。
- ・ 施策が現場で理解でき、実効性を担保する仕組み、基準、制度も重要。
- ・ 将来的には、サンドバイパスやサンドリサイクルを実施している砂浜も指定の対象になり得る。
- ・ 砂浜への投資価値は、すべての砂浜で同じになるのが最適であるが、実際は異なるので各砂浜に任せるのではなくて、どこかで一元管理しなければいけないと思う。
- ・ 砂浜指定と順応的管理の関係がわかりにくいので、砂浜指定をすると「予測を重視した順応的砂浜管理」がしやすくなる等の記載をする方が良い。
 - 別紙のフローに基づき、継続的なモニタリングにより侵食メカニズムを確認し、そのフローの流れを回すことで砂浜の安定が確認できて、その後、砂浜を指定する考えである。
- ・ このフローはわかりやすいと思う。
- ・ 砂浜指定するには、防護ラインや利用するギリギリのラインをどこで設定するか
の基準をまず決めなければいけないと思う。その後、フローが始まると思う。
- ・ 仮に管理の基準を決めた場合、多額の費用がかかるということになると、その砂浜は指定を外して何もしないほうが良いということになるのではないか。基準を決めるのではなくて、どれだけ砂浜の価値があるかで評価すべきではないか。
- ・ 管理水準がよくわからない。砂浜幅を管理水準にした場合、管理水準を下回ったら対策するといったように、結局、事後保全になり矛盾している。フローを健全に保つということであれば、フローが崩れた時に手を打つべきであって、それを管理水準にするならわかる。
- ・ やはり砂浜指定の位置づけを明確にした方が良い。指定をした方が「予測を重視した順応的管理」がしやすいとか、(砂浜指定が) ツールなのか、あるいはその地先で効率的に進めるための重要な制度なのか。あるいは日本全国の海岸を指定するのが最終目標みたいなイメージなのか。
- ・ 予測を重視した順応的砂浜管理のツールの1つとしての砂浜指定だと思う。
 - 指定という行政手続を踏むことによって、行政側が意識を高く持ってしっかり取り組むための仕掛けとして働くと理解している。
- ・ 「戦略的に行うべきである」とあるが、財政制約があっても、ある程度の海岸が

保全されるという意味だと思う。後背地の価値が重要なポイントだと思うので、「戦略的」のトーンが弱い。メリハリをつけてちゃんとやっていくことをもう少し強調して記載した方が良い。

- ・ 「砂浜指定する際の基本的な考え方を示した上で」の考え方をもう少し具体的にすると良い。
 - 砂浜の価値を示した上ではどうか。
- ・ 砂浜のランク分けに経済的価値を積極的に盛り込んでいってはどうか。
 - 別紙 P5 のグラフの縦軸に価値が高い、価値が低いと括弧書きで書いて、本文にも記載するのはどうか。
- ・ 砂浜の選択と集中、選択されない砂浜は、マイナスの恐怖感がある。価値の中身として、環境、文化的なものを書き入れて、条件を書き込めると良い。誰が価値を考え、誰が取り組むのかを書き込めると良い。それを国として後押しできる部分もあるとさらに良い。
- ・ 「戦略的」の表現が曖昧。もっと具体的に記載すべきである。優先的、切り捨てる砂浜もあることも含んでいるのか。
- ・ トータルとして守られる砂浜は増えるはずなので、心配しないで期待した方が良いのではないか。そのためには人材育成とか、横のつながりとか、縦のつながりが必要になる。
- ・ 気候変動の記述であるが、砂浜の予測は数十年になるので、気候変動も考慮しなければならないという記述にすると良い。
- ・ 人為的な影響があることも記載してもらいたい。
- ・ 海水浴利用の低下など、砂浜の利用価値の低下のようにも見えるが、砂浜保全（侵食対策による砂浜の維持又は回復）が砂浜の環境的な価値、文化的な価値の再認識につながるなど、効果をもたらすとの観点から、最後の環境の部分の記述の拡充に繋がればと思う。
- ・ 最初はサザンオールスターズなのに、最後は堅い文章になってしまっているの、最後にもう少しワクワクするようなキーワードを入れて欲しい。海岸に関してスポーツだけではなくて、地域づくりだとか、移住促進とか、美しい海岸は多世代にアピールしている。
- ・ 海水浴客は減少しているが、サーフィン等の海水浴以外は多様化しているので、最後にそのような記述を入れてもらえると良い。
- ・ 文化的価値財産は本来あるべきであるという前提で書き込めると良い。
- ・ おわりの文章は、美しい砂浜が消えつつあり、それを取り戻し次世代に引き継ぎという一文を入れてほしい。

2 その他

- ・ 今後の検討スケジュールで 10 回以降と記載されているが、11 回もあるのか。
 - 実践を踏まえての判断になる。

以上